

Shinsaibasi Reform Magazine

vol.3

Profile of an artisan 職人の横顔



心斎橋リフォームの美しい仕上がりは
多くの職人たちの腕から生まれる。
店頭ではお目にかかれない職人の横顔に迫る!!



**フィッターの想いを
粋なセンスと繊細なタッチで仕上げる
婦人服のオーソリティ**

幡野 清子さん_hatano seiko

福島県出身・千葉県在住 O 型 双子座

キャリア: 30 年

担当: 婦人服

勤務: 丸の内店

**Q かなりのキャリアの持ち主と
伺っていますが・・・?**

幡野_友人の付き合いで説明会を覗いたのを機に服飾の専門学校に進みました。学校の勧めもあり、昼間は縫製工場で働き、夜間学校に通い、技術を習得する道を選びました。卒業後は縫製工場を経て、個人でオートクチュール、プレタ、プレタのサンプルなどを手がけていました。直近では大手百貨店でお直しの仕事に従事してきました。私は服飾の仕事が好きですが、デザインよりも縫製、縫うのが好きなのです。

Profile of an artisan



Q それはどうしてですか？

幡野-縫うということは服を作るためのプロセスです。その工程をひとつひとつ積み重ねて行くことで、最終的に服が生まれてくるわけです。そういう意味では非常に達成感がありますから。

Q アレックスさん※にも伺った質問ですが、服を作ることとリフォームすることは根本が違うと思いますが。

幡野-服を作るために縫うという仕事は先ほども申し上げた通り、ひとつひとつを積み重ねていけば結果が出ます。(※前号 vol.2で紹介した職人)

しかし服を直すという仕事は、腕のラインを直すとしても何処をどう解いていけばもとの形になるのかという最終的な仕上がりをイメージして作業を進めていかなければなりません。ですから仕事としてはとても難しいし、正直大変です。私のところに届けられる依頼品は二つとして同じものがないのです。つまり応用もサンプルもない訳です。デザインもそれぞれ違うし、素材も異なりますから毎日四苦八苦しています。(笑)

Q 相当クリエイティビティが高い仕事と言えますね。

幡野_そうかもしれません。長いことこの仕事をしてきましたが、今の仕事は自分がこれまで経験したことがない領域に足を踏み入れていけないとできないことの連続ですから。やりがい大きいですね。



Profile
of
an artisan

Q 常日頃心掛けていることや 将来的な目標はありますか？

幡野_仕上がりをお渡しする時、直した箇所
が傷みにくいよう、丁寧かつ綺麗に仕上げる
ことを心掛けています。私が着ているものもそ
うですが、何回か洗濯しただけで、糸がほつれ
たり、余計な糸が出てくることがあります。折
角お直しを出して頂いた訳ですから、なるべく
そうならないように仕上げることを心掛けてい
ます。また現在までに30年以上のキャリアが
ありますが、まだまだ技術を習得しなければな
らない部分が沢山あります。少しでもそうした
技術が身につくよう励みたいですね。



Profile of an artisan

抜群のキャリアに加えて、前向きな姿勢に頭が
下がります!!! チーフフィッターが全幅の信頼を
寄せていることがよくわかります。

チーフフィッター曰く、「彼女はほんの一部を
直すとしても、服全体のリズムに合わせて仕上げ
てきますから仕上がりがとても美しいのです。素
材に合わせてアイロンの温度も巧みに調整したり、
非常に高度で繊細な技術を持っています。私が
共有したお客様の思いを完璧な形にしてくれる
素晴らしい職人です。」

次回は大阪本社で勤務する職人の声に続きます。